



## 「あえ～る」でコミュニケーションの場づくり 坂本千鶴さん(東町)

町の空き店舗の有効活用に、昨年8月にオープンした「あえ～る」の常勤職員としてイベントの企画、調整役を一手に担う。また、平成11年開催の「環境セミナー」をきっかけに「地域の環境意識を広めたい」と実行委員会のメンバーとともに「プレシャスネット」を結成。リサイクル活動などを通して、やさしさと思いやりの心と助け合いの輪を広げている。増毛町出身。夫・秀文さん、子・圭くん  
の3人暮らし。

「7年前に、商工会で組織するまちづくり委員会に縁あって参加したんです。数多くのボランティアで知り合った方々や、団体、委員会の活動などを『あえ～る』を通してつなげていけたらいいなあとと思ったんです」と優しい口調で話す坂本千鶴さん。

オープンからこれまでに開催したイベントは約40回、来館者は約9,200人を数えます。イベントの内容は、作品展示会や講習会のほか、町内探索など実に幅広く、また、そのほとんどが、町内に在住する方やサークル、団体によって開催されています。「最近では、ふくろう会主催の‘03当別ふくろう展(2月8日～16日開催)に、町内外から2,000人もの方が訪れてくれて、ビックイベントになりました」と、この仕事に意気込みます。

また、「当別町の鳥は、ふくろうなのに、町内でおみやげを置いているところがなかったので、ふくろう会の方のアドバイスを受けて、町内で焼き物をしている方や、札幌からふくろうグッズを集めて置くようになりました」と話すように『あえ～る』には、手作りの展示台に大小のすてきなふくろう達がところ狭しと並びます。

イベントのない平日にも、時間待ちをするお年寄りや、パソコン目当ての子供たちが立ち寄り、坂本さんと気さくに話を交わしていきます。坂本さんのもうひとつの活動に、『プレシャスネット』があります。

『あそ雪の広場』でのスノーマンファンタジー

やホットチョコドリンクの提供、ペットボトルリサイクルなど幅広く活動しています。

スノーマンファンタジーの数々の雪だるまと、地元産の素材を使ったホットチョコドリンクは、会場に集まった子供たちの心と体を十分に温めてくれます。できるかぎり環境にやさしくこだわります。

昨年9月からは、「子供たちの物を大切にすることを育てたい」と独自にペットボトルのリサイクル運動を始めました。土曜日の午前中『あえ～る』にペットボトルを持ってきた分だけスタンプを押して、ポイントを貯めたら景品と交換できるシステムに、毎週子供たちが多くのペットボトルを持ってきます。「今では、地域の方々も口コミで持ってきてくれたり、子供たちが自主的に手伝ってくれるようになり、子供だけのミニボランティア集団ができて、意識と活動が広がってきたのがうれしいですね」と仲間の方と微笑みます。

そんな坂本さんのまわりには、たくさんの仲間と楽しい話題が絶えることがありません。

